

お申込み～実施までの流れ

毎年、以下のような流れで実施しています。

- 1 お問い合わせ・お申込み** 1月上旬～2月上旬
参加校募集のご案内を都内の各学校へ郵送でお送りします。
お問い合わせ・お申込みは「NPO法人芸術家と子どもたち」
(TEL: 03-5906-5705 FAX: 03-5906-5706) までお願いします。
- 2 実施校の決定** 3月～4月
お問い合わせ・お申込みいただいた学校と連絡をとりつつ、
様々な条件を考慮して実施校を決定します。
- 3 実施校ヒアリング** 4月～7月頃
コーディネーターが実施校を訪ね、
希望内容(ジャンル・スケジュール等)をヒアリングします。
- 4 派遣アーティスト決定** ヒアリング後、1～2か月程度
コーディネーターが各学校の希望内容を踏まえて検討した上で、
最適と考えられるアーティストを決定します。
- 5 事前打合せ** 実施1～3か月前
コーディネーター立ち会いのもと、派遣アーティストと
各学校のご担当の先生とで実施内容について打合せします。
- 6 ワークショップ型授業の実施** 1回2コマ×8～10日間程度
コーディネーター立ち会いのもと、アーティストによるワークショップ型授業を実施。
授業後、ご担当の先生とアーティストとともに毎回授業を振り返り、
次回の授業に向けて打合せを実施します(以降同様)。

成果発表会(公演)の方法検討
各回の打合せの中で、適宜、成果発表の内容に応じて
音響・照明・美術・衣装などを検討します。
- 7 成果発表会** 公演
保護者や地域の方々、他学年の児童・生徒などに向けて成果を発表。
アーティスト、コーディネーターも立ち会い、子供たちをサポートします。



お申込みフォーム

お問い合わせ = NPO 法人芸術家と子どもたち(「パフォーマンスキッズ・トーキョー」事務局)
〒170-0011 東京都豊島区池袋本町 4-36-1 旧文成小学校 2 階
TEL: 03-5906-5705 FAX: 03-5906-5706 E-mail: mail@children-art.net

<https://www.children-art.net/>



PKT 学校詳細ページ

令和7年12月1日作成

パフォーマンスキッズ・トーキョー

学校向けプログラム 事業紹介



主催 アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
特定非営利活動法人芸術家と子どもたち

助成・協力 東京都

ARTS COUNCIL TOKYO



© 羽鳥直志

プロのアーティスト、 ホンモノとの出会いを通して

身体を動かして、頭を使って、心を熱くして、仲間と一緒にダンスや演劇の作品をつくる。

その過程で、子供たちはたくさんのことを体験し学び合います。

決まりきった表現から少し自由になること、

他者の表現や感覚と、自分のそれとの違いに気づくこと、

意見の違いや多様な表現を尊重しながらひとつの作品にまとめていくこと。

そこで学ぶことは、単なる技法にとどまりません。

芸術家という、表現とコミュニケーションの専門家の手を借りながら、

やってみよう、という一歩を踏み出す機会になるに違いありません。

きっと、普段、引っ込み思案な子供や、授業に参加しづらい子供、

あるいは、自分に自信が持てない子供や協調性に課題がある子供にこそ、

パフォーマンスキッズ・トーキョー（PKT）はかけがえのない体験になることでしょう。

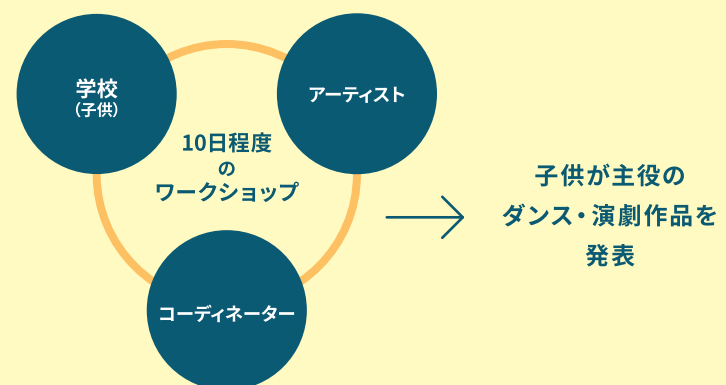
堤康彦（NPO法人芸術家と子どもたち代表）



写真：金子愛帆



パフォーマンスキッズ・トーキョー学校向けプログラムは、
ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロの現代アーティストを
都内の小中学校・特別支援学校に派遣し、10日間程度のワークショップ型授業を重ね、
子供たちが主役の舞台作品をつくり、発表します。



「創造力」「コミュニケーション能力」
「チャレンジする力」などの育成

舞台作品を集団でつくりあげていくことで、子供たちの「自主性」や「創造性」を育むことはもとより、「コミュニケーション能力」「チャレンジする力」「イメージする力」等の向上、あるいは、「自己肯定感」や「他者を理解する感覚」の醸成など、様々な教育的効果が期待されます。

丁寧なコーディネート

各学校のニーズ、対象となる子供の特性などにあわせて、最適と考えられるアーティストを派遣。コーディネーター（「NPO 法人芸術家と子どもたち」のスタッフ）が事業の開始から終了まで立ち会い、ご担当の先生方とアーティストのかけ橋となって意思疎通を図り、指導方針・方法やめあて・目的を共有しながら実施します。既存のプログラムに従うのではなく、それぞれの学校、子供たち、先生ならではのひとつひとつオリジナルの内容を丁寧に組み立てることができます。

ダンスや演劇、音楽の プロのアーティストを派遣

プロの現代アーティストならではの視点で、子供たちから出てくる表現・アイデアを活かしながら、子供たちが主役のオリジナル舞台作品をつくりあげます。舞台作品は、授業や学校行事の中で、保護者や地域の方々、他学年の児童・生徒などに向けて発表します。子供たちが新しい表現に出会うことで、子供たちの可能性を広げ、作品を鑑賞する人たちにとっても新鮮な体験になることが期待されます。

概要

●対象となる子供たち

小学1年生～中学3年生

＊各校 1～2クラス程度（応相談）
＊特別支援学級、特別支援学校での実施も可能です。
＊特別支援学校は高等部での実施も可能です。

●ジャンル

ダンス・演劇・音楽等

●実施日数

8～10日間程度

●実施時数

1回(1日)あたり2時間、計12～20時間程度

＊日数や授業時数はご担当の先生と相談しながら調整します。
＊そのほか、授業時間割、実施場所、発表の段取りなど
校内調整をご担当の先生にお願いします。
＊授業時数は、小学校は 45 分単位、中学校は 50 分単位です。

●実施場所

体育館又は広いスペース(多目的室等)

＊発表は通常、体育館で行います。

●発表作品

児童・生徒が出演する15～30分程度の
ダンス・演劇作品

●発表の機会

保護者参観、全校集会、学習発表会等

＊発表は、授業の中で保護者や地域の方々、あるいは
他学年の児童・生徒等なるべく多くの人たちへ公開します。
＊校内調整や保護者への連絡等、学校の授業及び行事として
必要な事項については、ご担当の先生にお願いします。

●実施教科

使用する教科・領域は自由

＊総合的な学習の時間、体育、国語、図画工作、音楽、
生活単元等。これらの組み合わせによる実施も可能です。

●費用

学校側の財政面での負担は
基本的にありません。

実践例紹介

約10回のワークショップ型授業を通じて、 子供たち、先生、アーティストが ひとつの舞台作品をつくっていきます。

都内のある小学校の取り組み事例をご紹介します。
※この事例はいくつかの取り組みをもとに再構成したものです。



先生のことば

動き出すことが苦手だった子も、動けるようになってきて、コミュニケーションもスムーズになった！

みんなと協力して
ダンスをすれば
よくできる！

事前準備

ワークショップ開始

打合せ(2回)

①コーディネーターと先生
②アーティスト及びコーディネーターと先生

1～2日目 [クラス別]

3日目 [クラス別]

4～6日目 [クラス別]

7～9日目 [全クラス合同]

最終日 | 発表会

10日目 [全クラス合同]

先生の想いや要望を 丁寧にヒアリング

子供たちの普段の様子を伺い、先生の想い、学校の雰囲気などをふまえて、その学校ならではのワークショップとなるよう打合せ。

(普段の授業をアーティストやコーディネーターが見学する場合もあります)

先生の想い

身体を動かすことは好きでも、自分を表現する経験は少ない子供たち。ワークショップを通じて、心も身体も解放する体験ができるように。言葉で表現することが苦手な子供たちだが、様々な表現方法を体験させてみたい。

身体ほぐし ～いろいろな動きに出会う～

身体ほぐしや、アーティストの動きのまね、簡単なルールのペアワークなどを通して、今まで知らなかった身体の使い方を学ぶとともに、自由なポーズをつくったり、いつも同じ動きになるとは限らない即興的な表現も体験しながら、身体を動かす楽しさを味わいます。

先生のことば

「疲れた」「ポーズが難しい」と言いながらも、前向きにチャレンジして、普段の学習とは違う子供たちの一面が見られた。

振付のあるダンス

アーティストが今回の子供たちの雰囲気 considering 考慮して考えた、オリジナルの振付ダンスにチャレンジ。はじめは戸惑って動き出せない子供たちも、「どんどん重くなるイメージ」「びっくり驚く!」「身体をすごしするイメージ」などアーティストの具体的なヒントで、少しずつ動きが大きくなっていき、さらに4日目以降のワークショップでも繰り返し踊っていくことで、子供たちの身体にも動きがなじんでいきます。

自分たちのダンスをつくる

5～6人のグループをつくり、これまでのワークで体験した動きをもとに、自分たちのダンスをつくります。いきなりダンスをつくるのは難しいですが、例えば一人ひとつずつポーズを提案し、ポーズをつなげていくことでもダンスができます。時には「動物」や「風景」などのテーマを決めてアイデアを出し合いながらオリジナルダンスを創作することも。動きのつなぎ方に苦戦するグループもありますが、アーティストが各グループをまわって助言しながらすすめていきます。グループワークを通して、様々な課題や工夫を見つけ、グループ同士で鑑賞し合うことで刺激をうけ、創作活動がどんどん加速していきます。

作品にまとめていく

各グループのダンスの質を高めると同時に、全体を構成して作品の流れを確認。即興的に動く場面、振付を踊る場面、子供たちが創作した場面などを織り交ぜて作品を構成し、子供たちの個性、仲間との協力、生き生きとしたエネルギーが満ち溢れる作品に！

発表公演

発表の場は、保護者や地域の方に向けた学校公開日。時間をかけて取り組んできたグループごとの創作ダンスを丁寧に見せたあとの、全員で踊るダンスは迫力あるシーンとなりました。観客だけではなく、子供たち自身も他のグループがどんな創作をしたのかを楽しみながら、お互いのダンスを鑑賞しました。

ポーズは
人と違う方が
面白い!

みんなで楽しく
踊れた!

アーティストのことば

間違えても OK! 大きくやってみよう! 自由に動くところも自信をもって挑戦して欲しい。一生懸命やった先に楽しいことがあるよ。

やり終わった時の
達成感は
すごかった!

楽しかった!

実践例参加者

●先生

身体的な学びやワークショップでのグループ創作に興味があり申込み。

●子供たち

身体を動かすことや、人前に出ること、人との関わりが得意な子もいれば苦手な子もいる。様々な表現の可能性を秘めた子供たち。

●アーティスト

振付家・ダンサーのアーティストが参加。メインアーティストに加えて、アシスタントダンサーも2名参加。ダンスカンパニーでの創作活動、舞台出演・演出のほか、学校でのワークショップなど、幅広く活動するアーティスト。

●コーディネーター

NPO法人芸術家と子どもたちスタッフ。打合せから毎回のワークショップ、振り返りまで全てに同行する、学校とアーティストと子供たちとの調整役。

ワークショップを経て

変化していく 子供たちの姿

～実施後アンケートより～

私は自分を表現したり出すことが苦手でした。ですが、アーティストさんは、たとえどんな表現であっても、私がそういう表現をしたということを認めてくれるのです。私は活動をしていくうちに、自分なりのダンスがあれば成立することを知り、自由な表現ができるようになりました。[児童]

友達の新しい一面を知る機会や新たな友情が生まれる機会となった。体育の「表現」の学習に対してイメージをあまり持てないでいたが、今回のプログラムを通して授業で使えるようなこともあり、貴重な体験となった。[担任]

子供たちが楽しそうに活き活きしていて、作品に引き込まれて、あっという間の時間でした。終わった後、子供たちが自信に満ちた顔をしていて嬉しくなりました。みんなで何かをつくる機会がとても大事だと改めて感じました。[保護者]

実践例紹介

一つひとつの学校にに応じて、柔軟なプログラムを組み立てていきます。

事例 1 | 小学校

関わり合いながら創作する アーティスト＝青木尚哉（振付家・ダンサー）

子供たちが様々な身体の使い方や動かし方を探っていけるようなワークを積み重ねました。二人組で相手の身体を操るように動かす「マネキン&デザイナー」のワークでは、自分の考えと相手の反応から、一人ではできない面白い動きやポーズが生み出されました。また、言葉の連想や擬音語を使った「オモシロそうさく詩」を元に詩を考えて動きをつけることで創作ダンスもできました。

<子供の感想>

- ・指示を待つじゃなくて、自分からチャレンジしてみることを学びました。あと、自分のやりたいことをはっきり言えるようになりました。
- ・1年生から5年生の時のダンスは先生の考えたダンスを真似して覚えるだけで、自分で考えて踊るようなことはありませんでした。でも、今回のダンスは自分たちで考えて表現するダンスで、初めて知った時は「できるかな」と思いましたが、練習を繰り返してグループの人と力を合わせて動けるようになりました。

●実施例学校データ

対象＝小学校5、6年生51人
日数・時数＝10日間・20時間
時期＝6～7月
発表の機会＝学校公開日



©松本和幸

事例 2 | 中学校特別支援学級

生徒と一緒に考えてつくる舞台 アーティスト＝棚川寛子（舞台音楽家）

「お芝居あり、演奏あり、歌ありの舞台をみんなでつくろうと思うんだけど、どうかな？」というアーティストの提案で始まったワークショップ。カップを使ったリズム演奏や、絵本からイメージを膨らませて生徒が歌詞を考えたオリジナル曲の作成など、生徒の気持ちや意見に寄り添いながら、発表する内容をアーティストと一緒に考えました。

<先生の感想>

何もないところから、一つのものをつくり上げるためには、多くの力量が要求されますが、5組の生徒が苦手とするコミュニケーション力を、アーティストの方々のおかげで、生徒個々の関係づくりをいつも大切にしながら指導・支援をしていただき、生徒一人ひとりが他者に気持ちを開き、信じて努力できたことは大きいと思います。本番はさらに、自分がやってきたことを多くの人に認められ、たくさんの言葉をもらったことが大きな自信につながったと思います。

●実施例学校データ

対象＝中学1～3年生（特別支援学級）16人
日数・時数＝10日間・19時間
時期＝7～10月
発表の機会＝合唱コンクール

事例 3 | 特別支援学校中学部

みんなでつくる一つの作品 アーティスト＝東野祥子（振付家・ダンサー）

アーティストの動きの真似からはじめ、「重い荷物を持つ」「ゴールキーパーがスライディング」などのイメージを元にしたダンスをリズムのある曲で踊り、楽しい雰囲気です繰り返し取り組むことで、どんどん身体が動くようになり、二人組や、グループなど、誰かと一緒に踊る楽しさも味わいました。作品内容は生徒の好きな物をヒントにすることで、興味をもって創作に取り組めました。

<先生の感想>

初めてダンスのお手本を見せてもらったとき、「難しいのでは…？」というのが率直な気持ちでした。しかし、アーティストのつくる楽しい雰囲気に吸い込まれるようにしてリズムに乗り、身体を動かす始める生徒たち。「こんなこともできたの?」と、新しい発見がたくさんありました。スポットライトを浴びながら、たくさんの拍手をもらうという、素敵な経験を最後にすることができました。生徒たちの主体性を引き出していただき、我々教員にとっても非常に貴重な時間になりました。

●実施例学校データ

対象＝特別支援学校中学部3年生28人
日数・時数＝10日間・18時間
時期＝9～10月
発表の機会＝学園祭

よくある問合せとその回答

Q 実施するのは何日間?1日何時間?

全部で10日間程度を見込んでいますが、内容や学校の都合に応じて実施日数を決定します。基本的に1回（1日）あたり2コマ、計12～20コマ程度の授業時数の確保をお願いしています。

Q 発表の機会はどんなとき?

各学校の都合に応じて決定します。例えば、学校公開日や全校集会、保護者会の前に発表の時間を設定したり、学習発表会や学芸会、図工展覧会などの校内行事の機会を利用することも可能です。

Q アーティストはどう決まるの?

コーディネーターが各学校の希望内容を考慮し、最適と考えられるアーティストを決定します。アーティストは振付家や演出家、作曲家など、第一線で活躍する専門家です。

Q 費用はどれくらい?

基本的には学校側の財政面での負担はありません。ただし、学校に日常的にあるもの（楽器や文房具など）は、相談の上、お借りする場合があります。

令和7年度実施一覧（学校）

学校名	地域	対象	参加人数	実施日数	授業時数	実施時期	発表の機会	アーティスト	ジャンル
阪本小学校	中央区	小学6年生	26人	9日間	18時間	12～3月	保護者参観	吉崎裕哉	身体表現
早稲田小学校	新宿区	小学3年生	97人	10日間	20時間 (18時間)	9～11月	学習発表会	辻田暁	身体表現
湯島小学校	文京区	特別支援学級	15人	6日間	11時間	1～2月	保護者参観	岡本優	身体表現
上野小学校	台東区	小学5年生	67人	9日間	18時間	9～12月	保護者参観	森下真樹	身体表現
中和小学校	墨田区	特別支援学級	10人	10日間	18時間	7～11月	学芸会	長与江里奈	身体表現
第五大島小学校	江東区	特別支援学級	28人	6日間	12時間	7～9月	保護者参観	仁科幸	身体表現
松沢小学校	世田谷区	特別支援学級	20人	9日間	19時間	6～9月	学級50周年イベント	北川結	身体表現
豊玉第二小学校	練馬区	小学5・6年生	77人	8日間	14時間	5～6月	運動会	中村蓉	身体表現
鹿浜未来小学校	足立区	小学6年生	52人	10日間	17時間	10～12月	学習発表会	東野祥子	身体表現
高嶺小学校	八王子市	小学4年生	47人	8日間	14時間 (13時間)	9～11月	展覧会	鈴木春香	身体表現
北野小学校	三鷹市	小学4年生	98人	8日間	16時間 (11時間)	9～10月	運動会	井田亜彩実	身体表現
日野第三小学校	日野市	特別支援学級	33人	9日間	15時間	8～11月	学習発表会	アオキ裕キ	身体表現
清瀬第十小学校	清瀬市	特別支援学級	13人	8日間	16時間	9～11月	保護者参観	小暮香帆	身体表現
向陽台小学校	稲城市	小学6年生	59人	10日間	20時間	9～12月	保護者参観	棚川寛子	演劇
二之江中学校	江戸川区	中学2年生	154人	8日間	25時間 (10時間)	11～2月	保護者参観	井田亜彩実	身体表現
小金井第一中学校	小金井市	特別支援学級	13人	9日間	16時間	12～2月	劇と音楽の会	北尾亘	身体表現
第三中学校	武蔵村山市	チャレンジクラス	17人	8日間	15時間	11～1月	保護者参観	鈴木ユキオ	身体表現
田園調布特別支援学校	大田区	高等部3年生	30人	9日間	15時間	9～1月	文化祭	康本雅子	身体表現
済美養護学校	杉並区	小学部5年生	16人	10日間	18時間	9～12月	学習発表会	セレノグラフィカ	身体表現
三根小学校	八丈町	特別支援学級	6人	10日間	16時間	12～2月	学芸会	酒井直之	身体表現
新島中学校	新島村	中学1～3年生	42人	13日間	21時間	8～10月	運動会	横山彰乃	身体表現

これまでの学校開催実績（平成20年度～令和7年度まで）

年度	実施校数	参加人数
令和7年度	21校	919人 [※]
令和6年度	21校	1,010人
令和5年度	21校	975人
令和4年度	17校	773人
令和3年度	21校	894人
令和2年度	14校	708人
令和元年度	14校	535人
平成30年度	14校	735人
平成29年度	14校	698人
平成28年度	14校	642人
平成27年度	14校	629人
平成26年度	12校	605人
平成25年度	12校	618人
平成24年度	12校	491人
平成23年度	12校	540人
平成22年度	10校	447人
平成21年度	10校	584人
平成20年度	4校	301人

※令和7年度は見込。

※授業日数及び授業時数には発表を含む。※（ ）内の授業時数は1クラスあたりに換算した時間数



©金子愛帆



©松本和幸